子ども読書支援情報誌

令和８年 10 月１日 発行
埼玉県立久喜図書館　子ども読書支援センター

Shien 第 35 号

し　え　ん

子どもの読書に関わる方々の活動とネットワークを支援(Shien)する。
そんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

バックナンバーは
埼玉県立図書館
ウェブサイトへ！

特集

すべての子どもたちに読書の楽しみを
～特別支援学級でのおはなし会～

昨今増加傾向にある*、小学校の特別支援学級。障がいの有無にかかわらず、すべての子どもたちに読書の楽しさを届けたい。今回は、特別支援学級でのおはなし会について、教員・ボランティアの実践事例やプログラム例を紹介します。

*文部科学省「特別支援教育資料」より（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1343888.htm 文部科学省）







～埼玉県立久喜図書館の学校支援のご紹介～

詳細は各々枠内の二次元コード（埼玉県立図書館ウェブサイト）をご覧ください。

読み聞かせボランティアのための講師派遣

おはなしボランティア指導者を無料で派遣します！

特別支援学校の図書館運営支援

疑問やお困りごと、ご相談ください！

バリアフリー読書展示セット、布絵本の団体貸出

とっておきのえほん100 冊セット（左）、学校支援セット（右）の団体貸出

加須市立三俣（みつまた）小学校での実践

長年、特別支援学級の授業に読み聞かせを取り入れている、加須市立三俣小学校の大出美砂（おおいでみさ）先生にお話を伺いました。

大出先生は通常学級の担任を５年間したのち、特別支援学級を17年間担任されています。今回は、読み聞かせによる子どもたちの成長や絵本の魅力についてお話しいただきました。



Q.どのような読書活動・読み聞かせの授業を行っていますか？

国語の授業の導入にほぼ毎回、手遊びや絵本の読み聞かせをしています。基本的には私が選んだ絵本を読み聞かせしていますが、子どもたちのリクエストで読むこともあります。加須市立図書館から毎月３０冊程度団体貸出をしてもらっていて、毎日1，２冊ずつ読み聞かせしています。学校にある本だけではなくて、いろいろな本に触れてもらいたいと思って始めました。

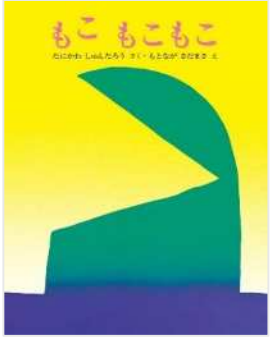
読み聞かせボランティアさんにも、学期に1回来ていただいています。普段おはなし会を行っているボランティアさんに来ていただくことで、私の選ばない絵本に触れる機会になって、ありがたいです。

Q.授業で読み聞かせを行おうと思ったきっかけを教えてください。

母が読み聞かせボランティアのサークルに入っていたこともあり、幼いころから本に親しんできました。育休中に自分も読み聞かせサークルに参加し、勉強しました。そこで自分も子どもたちによい本の読み聞かせをしたいという思いが強くなりました。通常学級には決められた教科書があり、定められたカリキュラムで進めなくてはなりませんが、特別支援学級は異年齢の集団なので、児童の実態に応じて柔軟に教材を選びます。全員で同じ世界を共有でき、楽しく物語を味わえる絵本は、教材としてもぴったりだと思っています。







Q. どのような絵本を選んでいますか？

季節に合わせた絵本や、科学絵本、『**もこもこもこ**』（谷川俊太郎作，元永定正絵　文研出版）など繰り返しがあってリズミカルな絵本を選ぶことが多いです。『**あっちゃんあがつく**』（みねよう原案，さいとうしのぶ作　リーブル）では、文字に親しんでいます。『**めのまどあけろ**』（谷川俊太郎ぶん，長新太え　福音館書店）は、授業の導入でよく使います。最後に心を落ち着かせて学習に入れます。

また、パネルシアターを行うこともあります。子どもたちは内容を覚えて、答えたり歌ったりして楽しそうに参加してくれます。

Q．印象に残っていることを教えてください。

特別支援学級を担当して間もないころは、それまで行っていた通常学級の手法が通じず、やり方を教えてくれる人もいませんでした。子どもたちは話を聞いてくれず、それぞれが好き勝手なことをしていましたが、読み聞かせだけは聞いてくれたんです。読み聞かせを毎日するようになったら、子どもが私の声に注目してくれるようになりました。特別支援学級の子たちとアイコンタクトをして心を通わせることができたのは、絵本の力が大きかったと実感しています。

Q．読み聞かせを行うことで子どもの成長を感じる場面はありますか？

やっぱり、話を聞けるようになりますね。座って話が聞けると、様々な学校行事に落ち着いて参加ができるようになり、生活の質が上がります。

また、面白いと思ったり、興味を持ったりすることでいろんな知的な活動にもつながっていきます。ただ、学習だけでなく、本の世界に浸ってほしいので、あまり勉強要素は強くないようにしたいと思っています。絵本の読み聞かせをすることで、一緒に笑ったり、楽しんだり、同じものを共有するという体験ができる。同じ世界に子どもたちを引き込んでくれる。重い障がいがあっても、一緒に楽しめるというのが魅力だと思っています。

↓校長室の前には、校長先生おすすめの本の紹介が！





教室内には2つの本棚があり、子どもたちが自由に手に取れるようになっていました。図鑑や絵・写真がきれいで文字が少ない絵本が人気です。↑

図書室を見学させていただきました！↓

図書委員さん作成の POP や、教科書に掲載されている図書の紹介がありました。







（取材・文責　職員 H）

小学校特別支援学級でのボランティア実践

「絵本大好き！おはなし大好き！」

学期ごとに2回、2時間目と3時間目は特別支援学級のおはなし会です。「みんな元気かな？」「今日はどんな顔を見せてくれるかな？」と考えながら、教室にふわふわのカーペットを敷き、長机にきれいな布をかけて、本・おはなしのろうそく・花・人形などを飾り準備完了。特別支援学級では、知らない大人が教室にきて、絵本を読んだり昔話を語ったりすることを楽しみにしている子どもがいる一方、抵抗を感じて不安になったり、落ち着きがなくなったりする子どももいます。カーペットに座ることさえ難しいこともあります。一人ひとりの子どもが抱えている困難について予備知識はありませんが、わらべうたや手遊びや絵本、それに昔話を一緒に楽しむことができるようにと準備して、子どもたちの入室を待ちます。

一番の課題は、どこに照準を合わせてプログラムを組み立てるかということです。聞く力や気持ちの表し方にも違いがある中で、学年ごとのグループを基本としつつ、担任の先生に子どもたちの様子をご判断いただき、【①今日は集中が難しそうだなと思われる子ども達のグループ】【②落ち着いて絵本が楽しめるグループ】【③おはなしも絵本も楽しめるグループ】の3つのグループに分けてもらいます。

ある日の【①今日は集中が難しそうだなと思われる子ども達のグループ】のプログラム例は・・・

・わらべうた「**ぽっつんぽつぽつ**」
（小雨から大雨まで）雨がだんだん強くなる様子を繰り返し歌います。

・小さなおはなし「**くまさんのおでかけ**」（『おはなしのろうそく1愛蔵版』東京子ども図書館編　東京子ども図書館　1997）人形を使って語ります。

・絵本『**わたしのワンピース**』（にしまきかやこえとぶん　こぐま社　1969）



「わたしににあうかしら？」と読むと「にあう～」「にあわない～」と声が上がります。夕日のページでは、みんなも眠くなりそうな顔をしてゆったりと聞きます。

お別れに、「わらべうた「**さよならあんころもち**」をしますよ」というと、「えー！　もう終わり？」と言ってくれるくらいがちょうどいいようです。

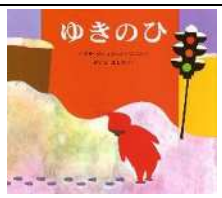
この小学校の特別支援学級では、1学期に2回程度、授業時間を使っておはなし会を実施していました。その度に先生方は市立図書館から絵本を借り受けて、毎日繰り返し読み聞かせをしていました。先生方のご尽力により、子どもたちの絵本やおはなしを楽しむ力がどんどんついてきて、「あの子があんなに長いおはなしを聞けるようになるなんて」と担任の先生が驚くようなこともありました。1学期に1回ずつ行われていた通常学級のおはなし会に参加しても、親学級のクラスメイトと一緒にしっかりと聞けることが多かったようです。本やおはなしをよいものと信じて、子どもたちに届けようという先生と私たちの思いが同じところにあって、はじめて可能となった実践だったと思います。

みんなで絵本やおはなしを聞くと、みんなの心が一つになって楽しくなります。「絵本大好き！おはなし大好き！」「また来てね！」と言ってもらえることが、とてもうれしいです。

小野寺（子ども読書支援ボランティア）

特別支援学級おはなしプログラム

①②は20分、③は30分のプログラムです。

おはなし無しでのプログラム（①②） ※おしまいにわらべうた「**さよならあんころもち**」をします。		
手遊び：**いちじくにんじん** 絵本『**いちじくにんじん**』（大阪YWCA千里子ども図書室案，ごんもりなつこ絵　福音館書店　2012） 絵本『**しんせつなともだち**』 （方軼羣作，君島久子訳，村山知義画　福音館書店　1987）		
手遊び：**あめこんこん** 絵本『**ゆきのひ**』（E.J.キーツさく，きじまはじめやく　偕成社　1983） 絵本『**どろんこハリー**』（ジーン・ジオンぶん，マーガレット・ブロイ・グレアムえ，わたなべしげおやく　福音館書店　1964）		
手遊び：**いもにめがでて** 手遊び：**やまからころころやまいも** 絵本『**やさい**』（平山和子さく　福音館書店　1982） 絵本『**しんせつなともだち**』（方軼羣作，君島久子訳，村山知義画　福音館書店　1987）		
人形：**トラさんとトラさんが** 手遊び：**てんやのおもち** 絵本『**おもち**』（彦坂有紀さく，もりといずみさく　福音館書店　2021） 絵本『**かさじぞう**』（瀬田貞二著，赤羽末吉絵　福音館書店　1966）		
わらべ歌「**にぎりぱっちり**」 絵本『**でてこいでてこい**』（はやしあきこさく　福音館書店　1998） 絵本『**こすずめのぼうけん**』（ルース・エインワース作，石井桃子訳，堀内誠一画　福音館書店　1977）		
おはなしが聞ける子たちのプログラム（③） ※おしまいに、おはなしのテキストの紹介をします。		
おはなし「**文福茶釜**」（『子どもに語る日本の昔話２』稲田和子著，筒井悦子著　こぐま社　1995） 絵本『**くまのコールテンくん**』（ドン＝フリーマンさく，まつおかきょうこやく　偕成社　1975）		
おはなし「**マメ子と魔物**」（『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎編　実業之日本社　1964） 絵本『**こねこのチョコレート**』（B.K.ウィルソン作，小林いづみ訳，大社玲子絵　こぐま社　2004）		
おはなし「**ふしぎなたいこ**」（『ふしぎなたいこ』石井桃子ぶん，清水崑え　岩波書店　1953） 絵本『**どうながのプレッツェル**』 （マーグレット・レイ文，H．A．レイ絵，わたなべしげお訳　福音館書店　1978）		
おはなし「**マーシャとくま**」 （『マーシャとくま』E．ラチョフえ，M.ブラートフさいわ，うちだりさこやく　福音館書店　1963） 絵本『**やまなしもぎ**』（平野直再話，太田大八画　福音館書店　1977）		
おはなし「**十二のつきのおくりもの**」 （『おはなしのろうそく1愛蔵版』東京子ども図書館編　東京子ども図書館　1997） 絵本『**ゆうかんなアイリーン**』（ウィリアム・スタイグ作，おがわえつこ訳　セーラー出版　1988）		

※①②③は、p４の３つのグループに対応しています。

小学校特別支援学級のおはなし会実践報告

白岡市内の小学校の特別支援学級で行ったおはなし会についてご紹介します。

学校にもよりますが、特別支援学級は大体低学年(1～3 学年)、高学年(4～6 学年)に分かれていることが多いようです。学年がまたがる場合は、下の学年に合わせて選書をするとよいと思います。

どの読み聞かせにも言えることですが、選書が大事です。「挿絵が遠目でもしっかり見えるか」、「おはなしの内容がわかりやすく簡潔になっているか」を基準に、選書を行っています。その中でも昔話はどの学年にも楽しめるのではないでしょうか。内容が起承転結でまとまっていて親しみやすく、加えてその季節に合った作品だとより親近感がわくのではないでしょうか。

また、同じ内容の作品も紙芝居(紙芝居舞台使用)を使うと、雰囲気が異なり興味が増すように思います。以前、紙芝居で『たべられたやまんば』(松谷みよ子脚本,二俣英五郎絵　童心社)を読んだとき、子どもたちから「『三まいのおふだ』だ」と声が上がりました。知っているおはなしも違う素材(紙芝居)で読むと、別な作品に思え、よく聞いてくれました。

秋の頃に読んだ作品に『びっくりまつぼっくり』(多田多恵子ぶん,堀川理万子え　福音館書店)があります。読み終わってから、実物のびんに入ったまつぼっくりを見せると、興味津々。「自分もやってみよう」という声が。興味・関心のきっかけ作りを読み聞かせでできるとうれしいです。

自分が行っている読み聞かせの活動経験から、通常の学級と特別支援学級では特に作品に区別なく、同じものを読んでいます。心がけていることは、先ほどの事項に加えて、「聞く側の子どもたちはこの作品を楽しんでくれるだろうか」と想像しながら選書を行うことです。子どもたちの環境や状態によって対応は異なるかもしれませんが、「子どもたちに言葉を伝える」ことは、どの学級でも同じだと私は思います。

こんな作品を読みました！



『だごだごころころ』
(石黒渓子再話,梶山俊夫再話,梶山俊夫絵　福音館書店　1993)



『びっくりまつぼっくり』
(多田多恵子ぶん,堀川理万子え　福音館書店　2010)



『たべられたやまんば』
(松谷みよ子脚本,二俣英五郎絵　童心社　1970)

井上(子ども読書支援ボランティア)

子ども読書支援ボランティア
ブックリスト担当より

特別支援学級でのおはなし会に おすすめの本

今回のブックリストは、特別支援学級の子どもたちへの読み聞かせにおすすめの本を、種類別に紹介します。
お話を楽しむ本、音を楽しむ本、参加型の本、知識の本。子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごせる絵本です。

お話を楽しむ本	**『だいくとおにろく』** （松居直再話,赤羽末吉画 福音館書店　1967）  	小学校の1～3年生を対象とした特別支援学級での読み聞かせで読んだ本です。子どもたちは終始静かに物語の世界に没頭していました。特に「おにろく」が初めて大工の前に現れて「はしをかけてもええぞ」と声をかけた場面と、最後に名前を当てられて「きいたなっ！」と川の中に消えていく場面は、年齢に関係なく子どもたちの目がキラキラしていたのを感じました。赤羽末吉さんの迫力ある絵と、松居直さんの簡潔でリズム感のある文が、子どもたちの心にワクワクした気持ちを呼び起こしていたのかもしれません。
音を楽しむ本	**『おいしいおと』** （三宮麻由子ぶん,ふくしまあきええ 福音館書店　2008）  	“いただきまーす”元気なごあいさつ。 春巻き、ごはん、おみそ汁、レタスにプチトマト！口に入れると食べる音がみんな違う。お箸で挟んで今まさに食べようとしている挿絵とお口の中のオノマトペが楽しい絵本です。読んであげる時には、ゆっくり食べているような速さで読むと、臨場感が出てより楽しめます。 “あぁ　おいしい”と満足したら、ページをめくりましょう。
参加型の本	**『やさいのおなか』** （きうちかつ作・絵 福音館書店　1997）  	いつも食べている野菜の断面、「おなか」をよく見たことがありますか？ネギ、レンコン、ピーマンなどの切り口は、実は思いもよらない姿をしていて、それがきれいに表現されている絵本です。クイズのように白黒のページで「これなあに？」と読むと、次のページに答えと野菜が色鮮やかに描かれていて、その美しさと不思議さに驚きます。始めはすぐに答えが返ってきますが、読み進むうちだんだん難しくなってきて、いろいろな答えが出て盛り上がります。外から見ただけだと分からない野菜の断面の不思議な形を楽しむ絵本です。年齢にかかわらず楽しめます。
知識の本	**『こいぬがうまれるよ』** （ジョアンナ・コール文, ジェローム・ウェクスラー写真, つぼいいくみ訳 福音館書店　1982）  	生まれたばかりの子犬。袋に包まれているよ。母さんとへその緒でつながっている。目も耳も、まだ開いていない。 子犬の出産と成長を追った絵本は、「赤ちゃんて、どうやってうまれるの？」という子どもの疑問に、みごとに答えてくれます。モノクロ写真にも子ども達は驚くほど集中します。「命ってすごいね！」と、どの子も感じているようです。

中北・石垣・小野寺・荒井（子ども読書支援ボランティア）

PICK UP

子ども読書支援ボランティア情報収集担当よりおすすめウェブサイトの紹介

特別支援学級での読み聞かせに役立つウェブサイト

☑ **特別支援学校での読み聞かせ【東京都立多摩図書館】**
https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/uploads/special_school_to_reading_and_telling.pdf
特別支援学校や特別支援学級での読書活動を支えるために作成されたもので、読み聞かせに携わる地域ボランティアの方にも参考になります。子どもたちが安心してお話の世界に入っていけるよう、絵本の選び方や語り方の工夫が具体的に紹介されていますので、活動前の準備やレパートリー作りに活用できます。

☑ **特別支援学級での読み聞かせオススメ本【ひよこ図書館】**
https://hiyoko-library.hatenablog.jp/entry/2019/11/18/222500/
ひよこ図書館さんのブログです。特別支援学校での読み聞かせについて、図書館員の視点から丁寧に紹介されています。特別支援教育の専門資料を紹介するだけでなく、「読み聞かせをする人の目線」で内容をかみ砕いているため、初めて活動する方にもイメージしやすい内容です。

☑ **発達障害におすすめの絵本10冊｜特別支援学級10年担任の私が厳選！【たかちゃん先生の特別支援学習プリント】** https://happy-funsite.com/archives/9677
特別支援学級で10年指導していた小学校の先生のサイトです。子どもの特性に合わせて「こんな子にはこんな工夫が合う」という形で書かれているため、初めて特別支援学級で読み聞かせをする方にも取り入れやすい内容です。

今回は特別支援学級での読み聞かせのための準備や工夫、選書について書かれているサイトを紹介しました。



坂本（子ども読書支援ボランティア）

子ども読書支援センターからのおしらせ

図書館と県民のつどい埼玉 2026

「図書館と県民のつどい埼玉」は、県立・市町村・高校・大学等の図書館や、
活字文化を支える団体が協力して開催する県内最大の図書館イベントです。

日時：2026年 12 月 6 日（日） 10 時から 16 時
場所：桶川市民ホール・さいたま文学館
【こども読書活動交流集会】

＼くわしくはこちら／



★読み聞かせ講座「読み聞かせ基本の「き」～選書のポイントとコツ～」
（講師：児玉ひろ美氏（JPIC 読書アドバイザー））

★学校図書館講座「志木市学校図書館事業推進アドバイザーに聞く！明日につながる学校図書館」
（講師：隅田由香利氏（志木市学校図書館事業推進アドバイザー））

★こどもの本のひろば（資料展示・工作会）

編集発行　埼玉県立久喜図書館　子ども読書支援センター　　協力　子ども読書支援ボランティア
〒346-8506　埼玉県久喜市下早見 85-5　TEL 0480(21)2659　メールアドレス lib-jido@pref.saitama.lg.jp